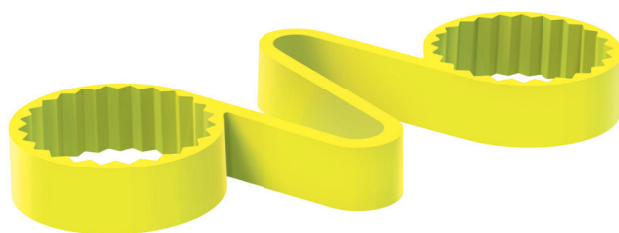


防ごう！大型車の車輪脱落事故

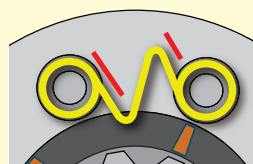
日常点検時の負担軽減 (大型ISOホイール用)

連結式ナット回転指示 インジケーター

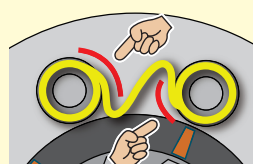


ナットの緩みがひと目で分かる！

- ナットの締付け力が大幅に低下すると、ナットが回転し始めインジケーターが変形します。
- 点検ハンマーによる打音点検と同等に緩みを検出可能。



正常



変形

インジケーターを正しく安全にご使用していただくために

○装着前

1. トルクレンチなどを使用してホイールナットの締付け状態を確認します。
2. 装着前に必ずホイールナット表面の清掃をお願いします。
油分等が付着しているとインジケーターが抜け出す可能性があります。
3. ホイールナットキャップが装着されたままでのインジケーターの装着はできません。

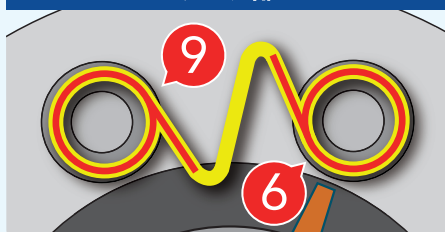
○装着時

1. 一輪内の全てのホイールナットに、**数字の9と6の形**になるように装着します。
2. インジケーターを隣り合う二つのホイールナットが連結されるように装着します。
3. インジケーターのリング部を繋ぐリンク部が変形しないように取り付けます。※
4. インジケーターをナット端面より奥に押し込みます。

※ ハブのリブにインジケーターが接触する場合は、リンク部の変形が少ないように取り付けます。



リンク部



ナットを連結



逆の取付



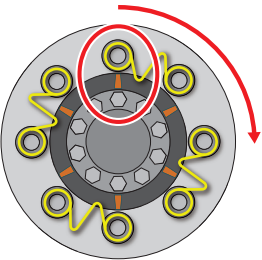
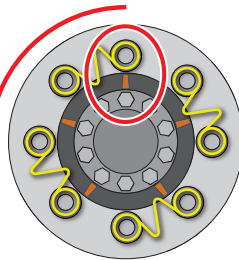
裏面に続く

インジケーターの使用方法と注意点

○ 取付位置

ISO8本仕様の場合の注意点

ISO10本仕様の場合は特に制約はありません。

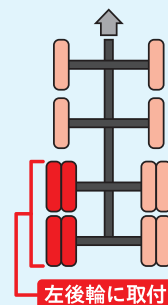
いすゞ	日野
- 図の赤○部分(ハブのリブとホイールナットが同じ位置)を起点とする。 - 時計回りの順序で取り付ける。※1 	- 図の赤○部分(ハブのリブとホイールナットが同じ位置)を起点とする。 - 反時計回りの順序で取り付ける。※1 
三菱ふそう	UDトラックス
3ヶ所のみ装着可※2	組合せを選んで装着※3

※1 ハブのリブに干渉しないよう、インジケーターとの組合せを選んで装着する。／※2 全ての部位にインジケーターを取り付けられない場合は、最大数を取り付ける。／※3 旧型車の一部の仕様は、ハブの形状が異なるため取付け出来ない場合があります。

○ 使用方法

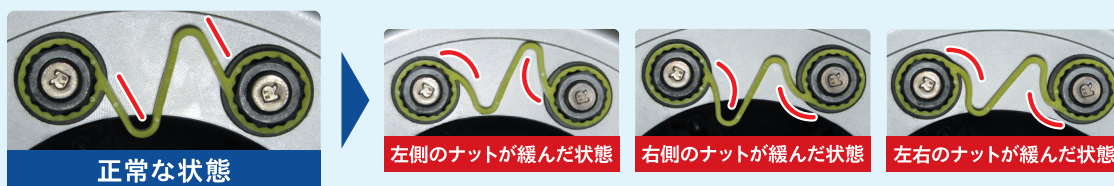
- ホイールが正しく取り付けられているかナットの緩み点検を行った後、ISO10車は1輪あたり5個、ISO8車は1輪あたり4個のインジケーターを**左後輪※**に取り付ける。(取付け時間:約3分/輪)
- ホイールを取り付けた後50~100km走行を目安に行う増し締めや3か月点検でのナット緩み点検(増し締めと同じ)、またその他の点検・整備でホイールを取り外す場合は、インジケーターを一旦取り外す。
- その後、ホイールを取り付けた後、**1.**の要領で再びインジケーターを取り付ける。(再使用)

※ 早期普及のため、国土交通省の事故分析結果で車輪脱落事故発生割合の高い左後輪にのみ装着することとしました。今後、大型車メーカー各社の販売店で販売する予定です。



○ 確認方法

ナットが緩んでくると回転してインジケーターが変形することでナットの緩みを目視確認できます。



○ 取外し時

- 図の赤○部分(リングの左右)を持ち、上下小刻みに揺らしながら引き抜きます。
- 片方のリングが外れたらもう片方のリングも同様に外します。

※ 硬くて引き抜けない場合は、ホイールナットキャップブライヤーの使用を推奨します。



○ 注意点

- インジケーターは樹脂製のため使用期間を1年間とします。
- 日常の緩み点検の際
 - インジケーター本体に、大きな変形や亀裂、破損等を発見した場合は交換。
 - 溶損が見られた場合は交換。ブレーキの使用過多やブレーキ故障、ハブベアリングの焼き付きの可能性が考えられるため点検が必要。
 - リンク部に変形やズレ等が見られた場合は、インジケーターを揺すり、ナットにがたつきがないか点検。ホイールボルト、ナット、ディスクホイールの点検、整備が必要。

この点検用具は、あくまで補助用具です。機能を過信せず日常の点検・整備の実施をお願いします。

